

CS こひつじ科礼拝式次第

2021年10月10日 午前9時30分

2021年度年間テーマ：「光の子として歩もう！～イエスさま 来てください～」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません」

ヤコブの手紙 1章22節

5、かみさまは（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ヤコブの手紙1章22節

「御言葉を行なう人になりなさい。自分をあざむいて、聞くだけで終わる者になってはいけません。」

(↓クリックで音声ファイルが開きます)

おはなしといのり 「みことばをおこなう人」

熊田雄二牧師

神の言葉を「御言葉(みことば)」と言います。「みことば」は、まず、聴くものです。ですから、教会学校や子ども礼拝でいちばん大切なことは、先生たちのお話を聴くことです。先生たちは、自分が話したいことを話しているのではありません。神様が話そうとしておられることを話しているのです。そのために、聖書を勉強して、お話の準備をしています。聖書は神の言葉、「みことば」だからです。

さて、きょうのお話は、「みことば」を聴くだけでなく、行ないなさいと言っています。「みことば」は、まず、聴くものですが、きょうの聖書箇所は、「聞くだけで終わる者になってはいけません」と言っています。「聞くだけで終わる者」は、自分にウソをついていると言っています。「自分をあざむいて」いるというのは、自分にウソをついたり、ごまかしたりすることです。

ぼくがある日、上福岡駅に行った時の事です。腰の曲がったおばあさんが、切符を買おうとしていました。どうしたらいいかわからないようでしたので、教えてあげました。そしたら、おばあさんが、「私は50年ぶりにブラジルから帰って来ました」と言いました。ぼくは「そうですか」と言って、改札口の方に急いで行ってしまいました。

電車に乗ってから心が落ち着きません。何か自分をあざむいている。確かに切符の買い方がわからないおばあさんに親切をしてあげたのですが、腰の曲がったおばあさんが僕の顔を見上げて「50年ぶりにブラジルから帰って来ました」と言ったことが頭から離れないのです。どんな思いでその一言を言われたかと思うと、胸がしめつけられるような思いがします。「ああ、よく帰って来られましたね。大変だったでしょう」と、なぜ言ってあげられなかったんだろう、と後悔したのです。

僕の妹が、ブラジルやブラジルの南にあるパラグアイという国に行って、10年ぶり、5年ぶりくらいに帰ってきます。妹は、ブラジルやパラグアイに行った日本人のおじいさんおばあさんに会って、どんな

に苦労したか話を聞いて本にする仕事をしています。そこで僕は分かっていました。「50年ぶりにブラジルから帰って来ました」という一言にどんな思いが込められているか。だから、なぜそんなに急ぐ必要があったのだらうと、つらくなったのです。

僕は「みことば」の教えに反していました。「みことば」は、神を愛しなさい、隣人を愛しなさい、と教えています。僕は、愛することをちゃんとしなかったのです。切符の買い方が分からないおばあさんに親切をしてあげたのだから、いいことしたじゃないかというのは、「自分をあざむいて」いることになります。自分にウソをついてごまかしています。もっと本当にするべきことをしなかった、言うべきことを言わなかったのです。

十戒は「～してはならない」という「みことば」が多いですが、「～しなさい」という「みことば」も二つあります。第四戒「安息日を覚えてこれを聖とせよ」。つまり、神を愛して礼拝せよ。第五戒「あなたの父母を敬え」。これは父母だけでなく、年上の人を大事にしなさい、ということですね。イエス様は、「みことば」に反することをした私たちの罪のために十字架に架かってくださいました。そして復活して、私たちを神の子として新しく生まれ変わらせて、喜んで「みことば」を行なうよう訓練してくださいます。

祈り

神様、私たちはあなたの「みことば」に反している罪人です。それでも、私たちを罪と滅びから救うために、イエス様をくださいました。イエス様をいただいて、罪の赦しを与えられ感謝します。復活したイエス様は、今、私たちに命の「みことば」を聴いて行なうよう訓練してくださることを感謝します。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

39、かみよわたしの (こどもさんびかをお用ください)